

2012年1月31日

東京ガス株式会社

2012年3月期 第3四半期 決算説明会

主なQ & A

Q 1 : 業務用ガス販売量の見通しを上方修正しているが、その背景について。震災以来、お客さまの節約影響により販売量が減少していたが、お客さまの行動に変化が見られているのか？

A 1 : 第1四半期以来、当初計画を下回って推移している。このため、第1四半期決算字に、業務用販売量見通しを8%程度引き下げた。その後、第3四半期には、12月に前年同期を上回ったように、気温、日数以外の「その他影響」の落ち込み幅は縮小してきた。これらを反映し、第4四半期の落ち込み幅を従来の8%減から2%程度上方修正し、6%程度の落ち込み幅としたものだ。

Q 2 : オール電化切替営業の状況、御社のお客さまの電化脱落の状況を聞きたい。

A 2 : 既築のお客さまの電化切替については、前年の4割程度の実績で推移している。しかし、弊社としてはこの水準が今後も継続する、または、さらに低下していくとは考えていない。オール電化切替の水準を低く保つために、お客さまにガスの良さを伝えていきたい。

Q 3 : 千葉・鹿島幹線の状況についてお聞きしたい。工事は順調進捗していると理解してよいか？また、同幹線沿線のお客さまの獲得状況について、現状をお伺いしたい。

A 3 : 千葉・鹿島幹線の建設状況は順調である。4月に供給開始する予定で工事を進めてきたが、その予定に変更はない。千葉・鹿島幹線から延伸した鹿島臨海ラインについても、工事は順調に進捗している。

お客さまの獲得状況に関して、千葉・鹿島幹線沿線のお客さまについて、いつ、どれだけの販売量拡大に資するかは、現時点ではお客さまとの交渉中であり、はっきりと申し上げられない。鹿島臨海ラインにより供給する東京電力様については、今年の夏に供給開始する予定である。